

令和8年度 患者の思いにこたえるワークショップ
in KAGAWA (案)

～わたしたちは、患者の望む医療やケアを本当に提供することができるの
だろうか～

1. 日時：令和8年12月5日（土）13:00～16:30（12:30～受付）
2. 会場：香川県社会福祉総合センター7階大会議室
3. 趣旨：

救急・集中治療の現場では、患者の意識レベルが低下し、本人による意思決定が困難な場合が少なくない。そのため医療従事者は、「目の前の患者が、いま何を望んでいるのか」を家族とともに考えながら、意思決定を支援する必要がある。また、救命が困難な状況においては、患者がその人らしい最期を迎えられるようにするとともに、遺される家族が患者の死を少しでも納得して受け止められるよう、家族の心情に配慮しながら丁寧にコミュニケーションを図ることが重要であると考えられる。さらに、医療従事者自身が倫理的な苦悩を抱え込まないためには、多職種で検討し、組織全体としてコンセンサスを形成できる体制を構築することが求められる。

本ワークショップでは、意思決定支援において臨床倫理の4分割表を活用し「本当にこれでよかったのだろうか」「もっと何かできたのではないか」と、患者や家族を大切に思うからこそ生じる日々の“モヤモヤ”について、参加者同士でディスカッションし、患者や家族が望む医療やケアを、わたしたちは本当に提供できているのだろうかという原点に立ち返り、みんなで考える機会とする。

4. 目標

- ① 遺される家族が患者の死を少しでも納得して受け止められるよう、家族の心情に配慮した丁寧なコミュニケーションを心掛ける大切さを理解する。
- ② 4分割表を活用し、情報を整理して問題点を明確にすることができる。
- ③ 本人なら何を望むか、患者を中心とした治療やケアの選択“Hope for the Best”の視点と、望まない状態になってしまった場合にどこで治療やケアを見直すかという“Prepare for the Worst”撤退ラインについて、あらかじめ確認することの大切さを理解する。

5. 講師

	所属	氏名（敬称略）
総括：	香川大学医学部附属病院 救命救急センター長	河北 賢哉
	東京ベイ・浦安市川医療センター 救急集中治療科部長	則末 泰博
	四国こどもとおとなの医療センター 脳神経外科医長、脳卒中センター部長	大北 真哉
	香川県立中央病院 救急外来センター長・部長	乙宗 佳奈子

	香川大学医学部附属病院 救命救急センター医師	山口 智也
	高松赤十字病院 看護部医療安全推進室看護師長	十川 美香
	香川県立中央病院 HCU 副看護師長	大西 由香
	香川大学医学部附属病院 救命センターICU 看護師	大川 早耶香
プログラム構成	香川県健康福祉部医療政策課	吉岡 育代

6. プログラム

時間	内容
13:00～13:02	開会あいさつ (2分) 医療政策課長 麻生 剛平
13:02～13:05	趣旨説明・講師紹介(3分) 河北 賢哉 先生
13:05～13:20	1-1. 『臨床倫理 4 分割表について説明』 (15分) 乙宗 佳奈子 先生
13:20～14:05	1-2. 意思決定支援についてディスカッション (45分) ～臨床倫理 4 分割表を活用して～ 乙宗 佳奈子 先生 事例提示 山口 智也 先生 (10分) 個人ワーク (5分) グループディスカッション (30分)
14:05～14:20	1-3. グループ発表(15分)
14:20～14:30	1-4. ディスカッション後、則末先生からのアドバイス (10分)
14:30～14:40	休憩 10分
14:40～15:40	2. 講義『適切なプロセスで行う SDM (共同意思決定) ～TLT (期限付き特定の治療の試行) や緩和ケアの視点を忘れずに～ (仮)』 (60分) 則末 泰博 先生
15:40～16:10	3. 講義『SDM のためのコミュニケーションスキルとは (仮) (30分)』 大北 真哉 先生
16:10～16:20	4. 意見交換 (10分)
16:20～16:25	アンケート (5分)
16:25～16:27	閉会挨拶 (2分)
16:27～16:30	全体写真撮影 (3分)

《配布資料》

・シンクトランスプラント vol.

『以上』